

ています。

環境省では、子供たちに阿蘇の草原環境を引き継ぐために、草原をテーマとした環境学習に取り組んでいます。阿蘇の草原のすばらしさ、草原とかかわることの大切さを理解してもらうための取り組みを紹介します。

POINT 03

教材の作成や出前講座を行っています

環境学習教材を作成し、活用状況を調べました

環境省では昨年、「草原環境」をテーマとした環境学習用教材として、草原カレンダーと教師用草原ハンドブックを作成し、阿蘇郡市内の小中学校に配布しました。このたび、配布した教材の活用状況を把握するため、地元小中学校の教員を対象にアンケートを行いました（回収率38.7%、回答者242名）。

草原カレンダーについては、「デザインや絵がかわいく親しみやすい」「阿蘇を知るよいきっかけになった」など概ね「よい」という評価を受けましたが、「低学年には難しい」という指摘もいただきました。



草原環境学習への関心の程度



草原カレンダー
2006年度版を
作成中です！

ハンドブックについては、回答いただいた先生のおよそ4人に1人が活用している一方、「きっかけがない」「内容を咀嚼していない」などの理由から、活用していないという回答が6割に上りました。ただし、9割を超える方から草原環境学習に関心があるという回答が寄せられました。環境省では、この結果をふまえ、来年度に向けてもっと使いやすい新しい教材づくりに取り組んでいます。

環境省レンジャーが「出前講座」を実施しています

環境省では、アクティブレンジャーを派遣して草原環境学習講座を実施しています。これまで、地元の小学校4年生を対象にクイズを交えた映像による草原の講座、県外の修学旅行生や熊本市内の中学生向けに草原の中で草原について学べる講座などを行ってきました。草原についてよく知ることが、草原再生への第一歩です。

出前講座のお問い合わせは阿蘇自然環境事務所まで。



アクティブレンジャーによる出前講座

アクティブレンジャーの紙芝居を食い入るように見る修学旅行生たち

インタビュー 草原再生への期待



坂田菊美氏 阿蘇市立坂梨小学校教諭 生まれも育ちも阿蘇

私が子どもの頃は、学校の遠足で草原に行き、ワラビを採って持ち帰ったものです。親せきの刈り干し切りなどの作業にもついていきました。そして、草原の中で間近に作業を見たり手伝ったりしました。そういう意味でも、草原をととても身近な存在として感じてきましたし、今でも阿蘇の草原の風景はきれいだなぁと思います。

でも、野焼きをしないと藪化するということや、等高線状の模様は牛が歩いた跡だとい

うことは、詳しい方から教えて頂いて初めて知りました。

残念な事に今の阿蘇の子どもたちは、美しい草原の広がる阿蘇にいながら、現場（草原）に行く機会も話を聞く機会も少なくなっています。そんな子どもたちが草原をより身近に感じることができるように取り組んでいけたらと思います。そして、子どもたちとともにこのすばらしい阿蘇を大切にしていきたいと思っています。